

資料配付の場所

1. 国土交通記者会
 2. 国土交通省建設専門紙記者会
 3. 国土交通省交通運輸記者会
 4. 横須賀市市政記者クラブ
- 平成 27 年 9 月 29 日同時配付

平成 27 年 9 月 29 日
国土技術政策総合研究所

柴崎国際業務研究室長が東アジア交通学会で優秀論文賞を受賞

平成 27 年 9 月 11 日～14 日、フィリピン・セブ島で開催された東アジア交通学会*において、柴崎国際業務研究室長が東京大学との共同研究の成果を発表した論文が、優秀論文賞 (Best paper award for best application in practices)を受賞しました。

受賞した論文は、「Impact Assessment Model of International Transportation Infrastructure Development: Focusing on Trade and Freight Traffic in Central Asia (国際交通インフラ開発のインパクト計測モデル: 中央アジアの貿易と貨物交通に着目して)」**です。

この論文は、柴崎国際業務研究室長がこれまで東南アジアなどで構築してきたインターモダル国際物流シミュレーションモデルを中央アジア地域(カザフスタン、ウズベキスタンなど5か国)に適用し、鉄道およびトラック輸送の機関分担や、越境地点における交通量を再現し、インフラ整備や越境諸手続きの簡素化による越境抵抗の低減が国際貨物流動に及ぼすインパクトについてシミュレーションしたものです。

今後、柴崎室長らの研究グループでは、アジア開発銀行(ADB)とも協力しながら、引き続き中央アジア地域を対象としたモデル構築研究を進めていく予定です。今年度は、中央アジア経済協力(CAREC: Central Asia Regional Economic Corporation)に近年加盟し、中央アジア地域発着貨物の海上輸送への今後のゲートウェイ港湾として注目されているパキスタンなど、南アジア地域を対象とした現地調査を実施しており、中国・ロシアやヨーロッパ地域も含めた、ユーラシア大陸全土を対象とするモデルへの拡張を行っているところです。

これらの研究でモデルの拡張等を行っていくことで、ゆくゆくは日本を含めた国際貨物流動を把握し、世界におけるインフラ投資や越境手続き簡素化等が、日本や各国の物流にどのような影響を及ぼすのかを明らかにし、ひいては、日本における港湾を含めた物流政策の検討に貢献するべく研究を進めていきます。

【問い合わせ先】

国土交通省 国土技術政策総合研究所 管理調整部 企画調整課 中村, 赤城
国際業務研究室 柴崎
(直通)046-844-5019



受賞の様子(左から Feng 東アジア交通学会会長, 加藤教授, 田邊氏, 柴崎室長)

* 東アジア交通学会 (Eastern Asia Society of Transportation Studies: EASTS) : 1994 年, 東京大学の中村英夫教授 (当時) の呼びかけにより発足しました。現在では北東アジア・東南アジア・オセアニアなど 19 か国が加盟し, 会員数は 1600 名を数えます。2 年に一度学術発表会が開催され, 平均 500 件程度の発表が行われます。第 11 回となる本年の発表会は, フィリピン・セブ島で開催されました。次回 2017 年は, ベトナム・ホーチミンで開催予定です。

**この論文は, 柴崎室長が代表を務める学術振興会の科学研究費 (科研費) 基盤 B 課題「アジア・ヨーロッパ大陸間のマルチモード国際物流シミュレーションモデルと政策分析」(研究期間:平成 25 年度~平成 28 年度)の一環として, 東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻加藤浩徳教授, および修士 2 年の田邊怜氏との共同研究の成果として投稿されました。

また, この論文は, 東アジア交通学会に提出されたおよそ 370 件の審査対象論文の中から, 特に実務への応用可能性が高い点が優れているとして選定されました (東アジア交通学会では, 他にアジア地域への貢献, 理論的な貢献など合計 8 部門について優秀論文賞が設定されています)。